

課題対応取組み報告書

名称	北区地域包括支援センター				
提出日	R6	年	6	月	12 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒	地域や専門職とのつながり等	☐	社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐	認知症高齢者等の支援	☐	自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐	その他（	）	
活動テーマ	我が事・丸ごとの地域づくり ～終活セミナーを活用した包括周知活動とマンションアプローチ～			
地域ケア会議から 見えてきた課題	○地域とのつながりが希薄な要援護高齢者では自ら支援を求めることができず、不衛生な環境や家賃・管理費の滞納、被害妄想等に起因する近隣トラブルなど深刻な問題が表出してからケース発見に至ることが多い。 ○高層マンションをはじめとする集合住宅ではオートロック等セキュリティが高く、プライバシーや個人情報への配慮により管理人や居住者が情報発信（相談）をためらう傾向にあり、結果として早期介入が困難となっている。 ○比較的資産が多いひとり暮らし高齢者で認知機能低下により複雑な金銭管理ができなくなると、資産はあるのに支払いができずライフラインが止まるなど生活に支障をきたすが、他者に金銭管理を委ねることに強く抵抗を示し、困窮状態に陥るケースが多くみられる。			
対象	まだ、介護等を必要としない高齢者やその家族。マンションの管理人や住民			
地域特性	高層マンションをはじめとする集合住宅が多く、オートロック等のセキュリティが高い。また、町会加入率も低く、交通や医療の利便性から高齢になって転居してくる高齢者も多い。そのため地域との関係性が希薄になりやすく、支援を求めることが難しい。 古くから住まれている方が多い地域は地域の見守りもあり、相談なども上がってきやすい。			
活動目標	○マンションへの個別アプローチを積み重ねながら、関係性ができつつあるマンションに対しては、終活セミナー開催等一歩進んだ啓発活動を実施することにより連携強化を図り、潜在化した高齢者の早期発見・早期介入の地域ネットワーク構築を目指す。 ○高齢者が元気なうちから認知症や介護が必要になることを自身の問題として考える機会を持ち、介護予防や権利擁護の意識を高める。			
活動内容 (具体的取組み)	①様々な情報発信ツールを活用した地域包括支援センター（以下「包括」という）周知活動 ・公式YouTubeチャンネルの活用（毎月更新） 社会資源や介護知識の紹介、自身で取組む介護予防や脳活など様々なジャンルの情報を、多世代への周知も視野に入れ発信し、相談業務等において職員との信頼関係構築やサービスの説明の一助になった。 また、包括で開催したイベントなど包括支援センターの取り組みも動画で紹介し、わかりやすく情報発信をした。 ・「包括だより」の定期発行 包括の周知や情報提供を目的として定期的に発行。I C Tの活用が難しい方が情報難民にならないよう配慮した。マンションアプローチ等の活動における『つながりづくりのツール』としても活用した。 ②マンション個別アプローチの継続及び拡充 2か月に1回の包括だより発行時にマンション管理人等との顔の見える関係作りのため訪問。管理人と情報交換を行ったり、周知チラシの掲示や配布を行った。 ③「北区私の記録帳」を活用した権利擁護に関する周知啓発講座の開催 「北区私の記録帳」を活用した終活セミナーだけではなく、成年後見制度活用や「もしバナゲーム」を活用した人生会議に関する講座をシリーズで開催し、高齢者が元気なうちから我が事として認知症や介護が必要になることを考え、準備できるよう働きかけることができた。また、マンションアプローチの一環としてマンションの管理組合等に終活セミナーの開催を提案し、集会所を利用して講座を開催した。			
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・様々なツールを利用し包括支援センターを広く周知することができた。特にYouTubeを活用した周知では、初めての相談員との面談でも、動画を見てたことから、親しみやすく信頼関係の構築の一助となった。また、YouTubeで紹介したサービスなど、手に取って確認することのできないものでも『動くパンフレット』として効果を発揮することができた。 ・継続的なマンションアプローチをすることで、マンションの管理人や管理組合と関係が構築でき、連携することで見守りや相談等につながることができた。 ・要援護高齢者になる前の高齢者に対し、認知症や介護が必要になることや終焉に向けて自身の問題として考えられる機会として、終活セミナーを開催し好評を得た。			
今後の課題	○見守り体制ができつつあるマンション関係者には引き続き有益な情報提供等で関係性を高めると共にプライバシーへの配慮等により、関係構築が至らないマンションにおいても、他のマンションの成功事例を活用しながら、丁寧な働きかけを積み重ね、関係構築につなげていくことが重要である。 ○終活セミナーを行うことで参加した高齢者の意識が高まってきており、成年後見制度の講座もすることができた。しかし、地域の高齢者に向けては開催が1回しかできておらず、その他はマンションの集会所で開催しており、マンションの住民意外に対しては、終活セミナーを聞く機会そのものもないので、地域住民に向けて終活セミナーを開催する必要がある。			

※以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 6年 7月 16日 (火)
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、 区地域包括支援センター運営協 議会からの意見等を記載。	北区圏域の地域性を考慮し、経年的にマンションアプローチに取り組んでいる。地道な活動によりマンションとの関係構築ができ、高齢者の見守りや相談につながっている。YouTubeでの配信も毎月継続し、新規相談者への安心やサービスの紹介としても功を奏した。 また、マンションアプローチにより関係構築できたマンション住民に対する終活セミナーや、人生会議に関する講座の開催は、専門性のある活動として評価できる。 今後はマンション住民のみならず、広く地域住民に対しても終活セミナー等の講座が行えるよう期待する。

課題対応取組み報告書

名称	北区大淀地域包括支援センター				
提出日	R 6	年	6	月	10 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	地域、専門職との連携強化と対応力向上に向けた取り組み	
地域ケア会議から 見えてきた課題	①認知症・ひとり暮らし高齢者・身寄りのいない方の支援 →財産管理、身上監護、権利擁護支援の重要性、個人情報への配慮 ②キーパーソンに対する支援 →家族支援、内縁関係にある家族への対応 ③支援を必要とする家族 (精神疾患、認知症 (認知介護)、生活困窮、要介護状態 (老老介護) への支援 →他機関との連携の必要性 ④ひとり暮らし高齢者の社会資源とのつながりの乏しさ ⑤男性高齢者の居場所づくり	
対象	地域住民、地域関係者、専門職	
地域特性	圏域内の約 8 割がマンション、団地住民 (市営住宅・U R 賃貸住宅) である。ひとり暮らし高齢者、夫婦のみの高齢世帯が増えている。コロナ禍により、地域住民同士のつながりも乏しくなり、今まで活動をされていたボランティアの方も減少傾向である。町会、民生委員、地域福祉コーディネーターが連携を図りながら、高齢者の見守り活動、居場所作りに積極的に力を入れている地域が多い。 また、企業、大学、専門学校などつながりも深く、地域との連携、協働した取り組みが活発である。	
活動目標	①複合的な課題を抱えているケースについては、相談が上ってきた早期の段階で地域ケア会議を開催。地域ケア会議から出てきた課題について、振り返りを行う機会を設ける。 ②課題に対するアプローチとして、個別ケースの対応力向上に向けて研修会や事例検討会を開催する。 ③小地域ケア会議から出てきた課題に対するアプローチを展開する。 ④⑤ワークショップ、出張相談会を継続して開催する。	
活動内容 (具体的取組み)	①地域ケア会議を18回開催し、関係機関と連携、役割分担して支援した。見えてきた課題をまとめて、次年度の取組みにつなげた。 ②「成年後見制度の活用」研修会、「事例検討会」を開催した。 ③豊崎東地域女性会と協働して、「A C P」「健康体操」「介護施設の選び方」等の講演会を開催した。 ④⑤地域の福祉会館等で定期的に出張相談会を開催した。男性限定ワークショップを6回開催した。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	①地域ケア会議に医療関係者、成年後見人、民生委員、障がい者支援機関、区役所などの多機関・多職種が参加したこと、連携を強化することができた。 ②介護支援専門員を対象として「成年後見制度の活用」研修会を開催し、60名が参加した。アンケートで46名が今後の業務に活用できると回答を得た。 多職種を対象として事例検討会「認知症高齢者の虐待防止・養護者支援について」を開催し、102名が参加した。 ③豊崎東地域女性会ワークショップを3回開催し、61名が参加した。意見交換を行うことで、地域課題の把握や連携を強化することができた。 ④⑤定期的に出張相談会を開催することで、身近で相談できる地域づくりにつながっている。数年後に相談につながったケースもあった。男性限定ワークショップは徐々に参加者が増え、10名程度の新たな居場所に発展した。	
今後の課題	・地域ケア会議の振り返り会議を開催することができていない。 ・今後、より多くの地域と課題解決に向けた取り組みが必要となる。住民主体の活動・通いの場に発展するような支援が求められる。	

※以下は、区運営協議会事務局にて記入

区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 6年 7月 16日 (火)
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性
評価できる項目 (特性) についてのコメント	ネットワーク構築の取組みを経年的に実施しており、地域での研修会や事例検討会の開催、講演会等、地域関係者や多職種に対する困難ケースへの対応力向上にも力を入れている。 地域課題である男性の居場所づくりに対しては、男性が興味を引きそうな本気の筋トレをテーマに、男性限定のワークショップを開催し、回を追うごとに参加者も増え、新たな居場所へと発展している。 今後も、より多くの地域において、地域と協働し新たな取り組みができるよう期待する。

* 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。